

## ●地域環境科学部地域創成科学科（高一種免（農業））

### ①教員養成に対する理念

#### ■高一種免（農業）

水資源や食料生産、環境保全等を担ってきた農山村地域の保全・再生、持続的発展に向けて行動できる地域社会の担い手となる人材を育成することを使命としている。その使命を果たすため、低学年次に配当される教養的科目や基礎的専門科目によって自然科学、人文・社会科学に関する知識を、高学年次に配当される基幹的専門科目によって林学・造園学・農業工学を基底とした地域創成科学の専門知識を習得するとともに、地域交流実習やフィールド実習等の総合化科目の履修を通じて、習得した知識や技術を実際の課題解決に活用できるようにする。また、その過程において、「論理的・多面的に物事を考える能力」、「知識や技術を応用できる能力」、「他者と協力し問題を解決に導く能力」など、人材育成目標の達成に必要な素養を身につけさせる。

上述の学科の性格・目的から「高度な専門的知識と技術を持ち、広い視野を備え他者と協力して積極的に行動できる教員養成」を理念とする。この理念を実現するための教員養成の構想として、様式第8号ウに各年次における到達目標を明示し、履修カルテにより到達目標の達成度を確認する。

以上の理念・構想から「林学・農業工学・造園学に関連する高度な専門知識を有するとともに、自然環境、生活環境および社会環境の関わりについての広い知識と豊かな感性、観察力、高い倫理観、論理的思考能力を有する教員」を地域創成科学科の目指す教員像とする。

### ② 教職課程の設置趣旨

#### ■高一種免（農業）

本学科では、日本の高校農業教育は従来、自営者養成を第一としてきたが、近年の生徒の多様化により、担い手育成のみならず、食料生産や環境保全の視点から農業の大切さを伝えるとともに、地域社会の活性化を図る役割を担っている。このような日本の高校農業教育の方向性は、食料自給率の向上や環太平洋地域の貿易自由化対策としての日本農業のブランド力向上が求められている現状において、益々重要視されていくものと考えられる。

このような課題に対して、教養科目や「地域環境論」「里山生態学概論」等の基礎的専門科目の学修を通じて自然環境、生活環境および社会環境の関係性等の幅広い教養的知識を学ぶとともに、「保全生態学」「農域防災論」「地域環境計画学」等の基幹的専門科目の学修を通じて、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法や地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、地域マネジメント手法などの幅広い専門知識を習得する。また、「地域創成フィールド実習」等の総合化科目の履修を通じて、習得した知識や技術を他者と協力して実際の課題解決に活用するための方法を学ぶ。これらの過程を通じて、観察力や高い倫理観、論理的思考能力を涵養する。また、高度な専門的知識と技術を持ち、広い視野を備え他者と協力して積極的に行動する能力を養う教育課程となっており、これらの課程を修めることによって、高校「農業」教員の養成が可能であるといえる。

以上のことから、本学科の学修が高等学校「農業」の教育目標と合致するため、高校「農業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。